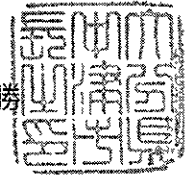


中 道 第 2979 号
平成20年10月20日

国土交通省
道路局長 金 井 道 夫 殿

中津市長 新 貝 正 勝



今後の道路行政についての意見・提案について（回答）

平成20年9月19日付、国道企第37号にて依頼のありました標記の件につきまして、別紙のとおり回答いたします。整備の遅れている地方の道路事情をお汲み取りいただき、今後の道路行政にご反映くださいますよう宜しくお願い申し上げます。

○地方の道路整備は必要不可欠である

昨年来、道路特定財源の問題が国会をはじめ、マスコミなどで取り上げられ、また、原油高の影響もあり道路不要論が依然として根強い。しかし、地方の道路整備は都会に比べて大きく遅れています。都会はバス・鉄道・地下鉄・道路などの公共交通機関が充実しており、自動車に頼らなくても生活はできますが、地方(特に九州地方)は交通移動手段の内、自動車での依存率が93.8%であり、三大都市圏の49.4%に比べ非常に高くなっています。

また、逆に道路特定財源の税負担は、大分県では東京都区部の約2.7倍の年間9万円であり、更に家計に占める財源負担率は東京都区部の約4倍の3.13%に及んでいます。このことから、地方は自動車が如何に生活に欠かせないかが分かり、道路整備は喫緊の課題であります。中央の理論だけで計画することなく、地方の実情を的確に把握したうえで、積極的に道路整備を進めることが必要不可欠であります。

○費用対効果だけで判断しないこと

地方にとって「道」は産業や地域の発展はもとより、「生活の道」であり「命の道」でもあります。自然災害の多い大分県において、一本の道路が生死の分岐点となり県民生活を支え、また、緊急医療等の一刻を争う場合でも、道路は重要な役割を担っているのです。特に少子高齢化が急速に進む山間地域などにおいては、費用対効果の理論では片付けられない切実な課題が山積しており、決して費用対効果だけで判断しないことを切にお願いします。

○安全・安心な暮らしのための道路整備も必要である

本格的な高齢化社会を迎え、誰もが安全で安心して暮らせる街づくりのためには、地域の活力を高めるため魅力ある市街地づくりなどを進めることが必要です。市街地における物流交通の幹線道路への誘導、コミュニティバスの円滑な運行などを図るために、幹線道路の整備を進めることが不可欠であります。また、将来のコンパクトシティづくりを見据えた、都市計画道路の整備や、地域住民に密着した通学路・生活道路の整備も必要不可欠であります。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ②

②－１ 地域の現状と抱える課題

大分県中津市

○現状

中津地域は、重要港湾・中津港が国際海上輸送網の拠点港に向けて現在整備計画中であり、また、隣接地に平成 16 年 12 月に操業開始したダイハツ九州(株)は、その後も着実に業績を伸ばし、平成 19 年 10 月には完成車が中津港から直接欧州に向けて輸出が開始され、同年 12 月には第 2 工場も完成し生産能力は年産 46 万台になりました。

更に、同社は福岡県久留米市に完成したエンジン工場から製品の輸送が今年の 8 月から始まり、北部九州の自動車生産 150 万台構想の一翼を担うまでに拡充されています。それに伴い地域経済への波及効果が一層高まり、今後自動車関連産業の交通量も益々増大いたします。

しかしながら、急速な企業立地や経済の進展に対応すべき道路整備等の遅れにより、既設の幹線道路である国道 10 号や国道 212 号をはじめ、県道「中津高田線」など多くの道路で渋滞が生じ、市民生活に支障をきたしているのが現状であります。

○課題

そのような状況を踏まえ、高規格幹線道路である「東九州自動車道(築上～中津～宇佐間)」の早期整備及び、「中津日田地域高規格道路」の早期全線開通は緊急の課題であり、地域住民の切なる願いでもあります。

また、交通量が著しく増加している県道「中津高田線」の 4 車線化の促進や、福岡県東部地域との経済・生活交流には欠かせない山国川河口部の架橋も急がねばなりません。

更に市街地の円滑な道路網を確立する都市計画道路の整備、住民が安全で安心して暮らせるための、市道等の整備も併せて図る必要があります。

②-2 地域の目指すべき将来像

大分県中津市

○基本方針

商工業や観光等の物流基盤の強化と、地域間交流並びに災害時や救急医療体制の強化を図るため、東九州自動車道、中津日田地域高規格道路、県道中津高田線及び山国川河口部の架橋など、本市の骨格となる幹線道路の早期整備が不可欠である。

また、一体的な発展と交流・連携及び地域間格差の解消のため、地域間を結ぶ国道や県道の整備を推進し、更に、住民生活の向上を図り市域内へのアクセスを円滑化するため、都市計画道路や地域の生活道路である市道の整備も推進する。

○広域基幹交通網の整備

広域的な産業・経済・文化の発展並びに地域間交流の活性化や連携を促進するため、東九州自動車道や中津日田地域高規格道路の幹線道路の整備を促進し、九州横断自動車道などとの広域的な高速道路ネットワーク化を図る。

○幹線交通網の整備

本市における一体的な発展と地域間格差の解消のため、地域間を結ぶ国道や県道の整備を促進し、更に地域生活の利便性の向上を図り、市内全域のアクセスを円滑化するため、都市計画道路や地域の生活道路である市道の整備を推進する。

○交通安全・災害対策の強化

安全・安心なまちづくりの観点から、通学路、生活道路等において子供や高齢者を交通事故から守り、安心して外出できる人優先の道路交通環境整備を図る。また、山間地域では歩行者の安全及び視距確保のための道路改良、更には落石防止や崩壊による災害防止の強化を図る。

③ 道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

大分県中津市

○重点事項 ・東九州地域の発展と交流・連携の向上	○代表事例 ・東九州自動車道(築上～中津～宇佐間)の早期開通 東九州自動車道は、九州縦貫自動車道や九州横断自動車道と一体となって九州を循環する高速交通体系を形成し、東九州地域はもとより、九州全体の産業・経済・観光・文化などの一体的発展や地域間交流・連携の推進に大きく貢献する最重要路線であります。しかしながら、本路線の整備状況は、全延長436Kmの内、わずか2割程度の区間が部分的に供用されているにすぎません。 築上～中津～宇佐間の区間(28.3Km)の整備につきましては、西日本高速道路㈱が事業主体となり平成28年度の供用目標を掲げ事業推進中であります。 また、供用年度を1年でも早めるため、用地買収業務では福岡・大分両県の職員及び沿線市町職員の専従による強化が図られています。	○期待する効果や評価等 東九州自動車道は、九州縦貫自動車道や九州横断自動車道とともに、九州の高速自動車国道のネットワークを形成し、東九州地域の産業・経済・観光・文化の振興と均衡ある発展を図り、地域間交流・連携の推進に大きく貢献いたします。 特に、築上～中津～宇佐間の早期整備は北部九州に展開する自動車産業等の物流の効率化や輸送時間の短縮が図られるとともに、福岡・大分両県の産業の発展、並びに沿線地域への新たな企業進出に伴う雇用の促進、交通混雑の緩和、更には災害時や緊急医療体制の強化など、沿線諸都市の生活の向上・活性化にも寄与いたします。
--	---	--

③ 道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

大分県中津市

○重点事項 ・地域活力の向上	○代表事例 ・中津日田地域高規格道路の整備促進 中津日田道路は、大分県北・日田地方拠点地域の中心都市である中津市と日田市を結ぶ延長約 50Km の地域高規格道路であり、九州横断自動車道や東九州自動車道とともに循環型ネットワークを形成し、更に、重要港湾中津港との連結により、海上交通のネットワークとも結節する重要路線であります。 本路線は、平成 6 年 12 月の計画路線として決定以来、着実に整備が進められておりますが、平成 20 年度時点では整備区間で着手している延長は約 26Km に止まっております。残る 24Km の整備区間への早期格上げによる一日も早い全線開通が是非必要であります。	○期待する効果や評価等 ・暮らしの観点から(生活の質の向上) 30 分で到達できる圏域が拡がり、交流・購買・文化・医療等様々な分野でサービスの向上が図られ、いわゆる「限界集落」が良い意味で様変わりするなど、住みやすさが一段とアップし、また、サービス向上により地域への愛着や人口減少・過疎化に歯止めがかかります。 ・安全、安心の観点から ・大規模災害時の一般国道 212 号の代替道路となります。 ・救急医療面において、高次医療施設が整う都市部へのアクセス時間の短縮が図られます。 ・市街地への通過交通の減少により生活環境が向上します。 ・産業の観点から 地域産業の活性化を促し商業集積地への集客が期待できるとともに、ダイハツ九州(株)と同社のエンジン工場(久留米市)を直結する道路として、産業戦略の観点からも大きな効果があります。また、地域の雇用や産業生産額の増加が見込まれ、定住人口の増加や産業の活性化に大きく寄与できます。
------------------------------	--	---

		・<u>観光の観点から</u> 豊富な観光資源を持つ中津日田地域へのアクセスが向上し、広域的な集客や新たな観光ルートの創設など観光産業の活性化につながります。
--	--	---